

平成19年度文部科学省『特色ある大学教育支援プログラム』に本学の教育取組「新たな工学的感性を養う教育プログラム - 表現行為の実践と人文的教養を基礎として - 」が採択されました。

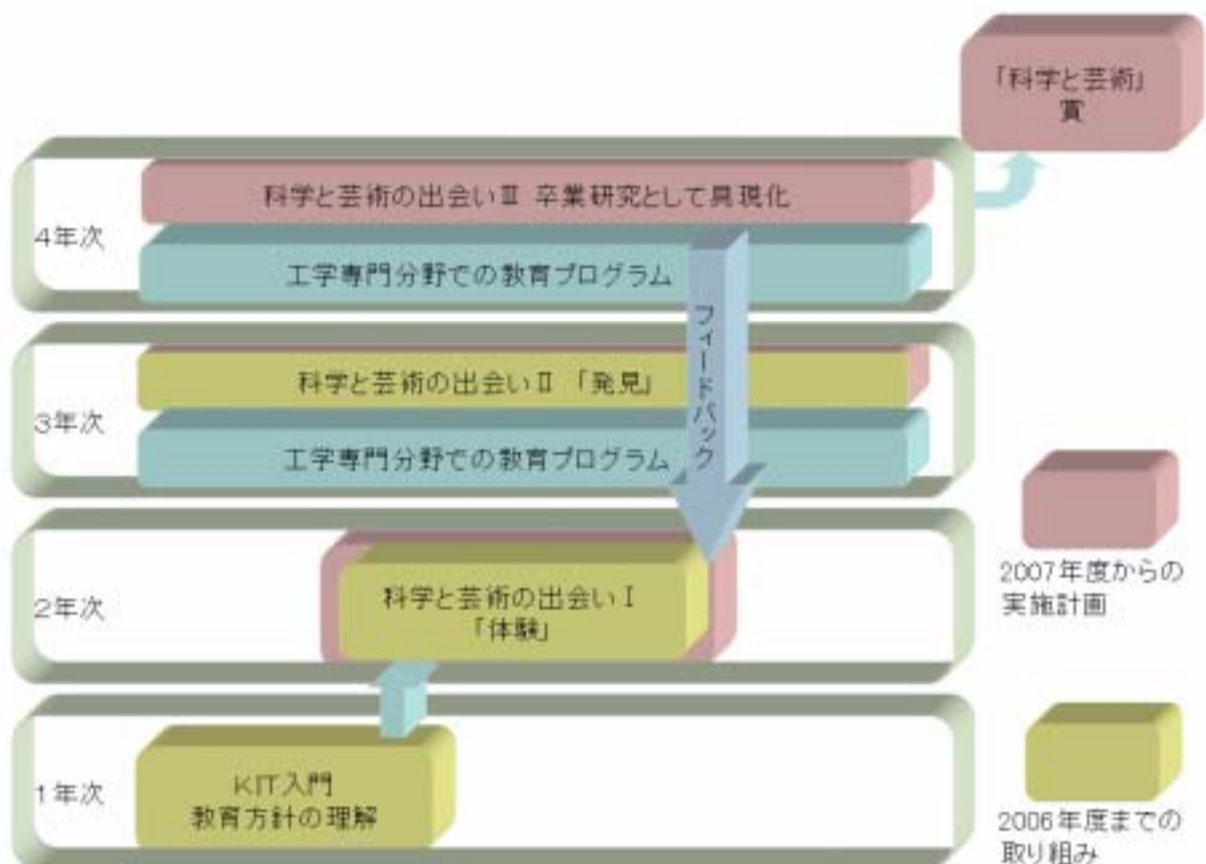
【取組概要】

本取組は、新たな時代に対応できる工学的感性を身につけた人材養成を目指す教育プログラムの確立に向けた試みです。

本学は、開学100周年を機に「科学と芸術 - 出会いを求めて - 」というスローガンを掲げ、2期7年にわたり芸術的表現行為の実践と人文的教養にもとづく人間教養科目「科学と芸術の出会い」(2年次)を核とする教育プログラムを実施してきました。本取組は、このプログラムを、学生各自が「科学と芸術の出会い」を体験し、各自の専門分野での「科学と芸術の接点」を発見し、卒業研究として具現化するという、1年次から卒業研究に至るまでの継続的なプログラムに再構築し、その過程を、全学的に支援し、評価し、顕彰することを目的としています。

この教育プログラムの確立により、本学のスローガンを実践し、新たな時代に対応できる工学的感性を身につけた、特色ある人材の輩出を目指します。

【事業実施計画】



【授業「科学と芸術の出会い」の実践例】

講義科目

2005 年度	江島学長	視覚心理学	光と影による空間認識 ヒト視覚系による奥行知覚
	久保田教授	ホログラフィー	ホログラフィー 光が織りなす3次元映像の世界
	並木教授	日本美術史	迫真への挑戦 明治期における洋画 vs 写真
2006 年度	江島学長	視覚心理学	科学と芸術 視覚の時間的変容
	藤田教授	有機合成化学	カラー写真のしくみ
	三木助教授	美学・現代美術	<フィクション>という名の現実 科学技術と芸術のゆくえ

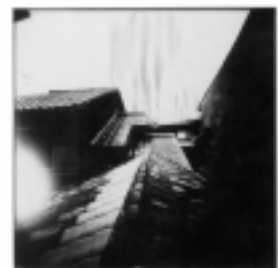
ピンホールカメラの制作と撮影



作業風景



作品展示

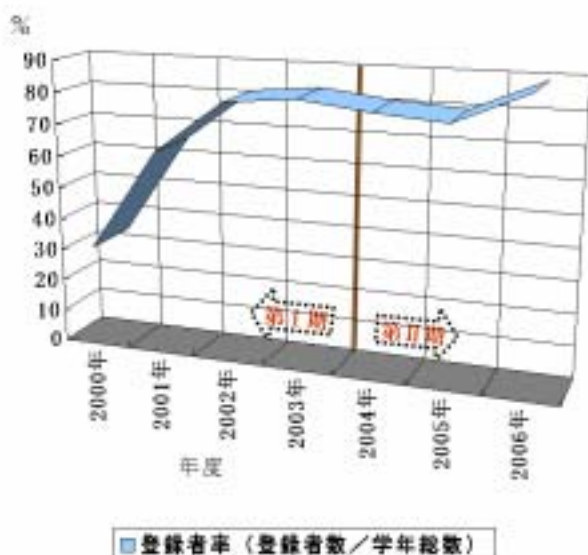


作品例

京都工芸繊維大学
工学部 情報メディア工学科
メディア芸術学研究室
〒606-8585 京都府京都市南区宇治1-23-1
TEL: 075-724-5200 FAX: 075-724-5201
E-mail: media@kit.ac.jp

京都工芸繊維大学
工学部 情報メディア工学科
メディア芸術学研究室
〒606-8585 京都府京都市南区宇治1-23-1
TEL: 075-724-5200 FAX: 075-724-5201
E-mail: media@kit.ac.jp

【学生登録者数（率）の推移】



「科学と芸術」登録者率推移

	年度	対象学生数	登録数	登録率
第 期	2000	757	242	32.0
	2001	756	483	63.9
	2002	733	588	80.2
	2003	755	622	82.4
第 期	2004	733	586	80.0
	2005	728	571	78.4
	2006	743	654	88.0
	平均			72.0

主に2年次生が対象

【申請プログラム内容（1～4年次生を対象とした構成）】

第Ⅲ期（申請取組）2007～		
4年次	科学と芸術の出会いⅢ	関連分野の学外有識者を含めた評価委員会へのプレゼンテーション
3年次	科学と芸術の出会いⅡ	学内外講師講義 芸術人文系ゼミ
2年次	科学と芸術の出会いⅠ	関心を社会に広げる講義 ① 都市論 ② 都市解析
		制作課題の拡充 ① 写真家の招聘 ② 現像装置の整備 ③ 外部での展示
1年次	KIT入門	本学の教育研究の基本についての講義

本取組でいう工学的感性とは

21 世紀の社会において、科学や技術の過度の偏重から脱し、人間にとって優しいもの、人間が美しいと感じるもの、環境や自然と調和するものを作り出すために、「優しさ」「美しさ」「調和」などを感じ取り、それをもの作りに活かすことができる能力を指します。

現在の日本では、科学的分析主義偏重への反省から、社会・国民の科学技術に対する理解・認識の深化に向けて、科学と芸術の融合などの新たな取り組みが求められています（第3期科学技術基本計画）。本取組で目指している新たな「工学的感性」とは、このような動向を踏まえて、科学と芸術の融合を、本学の工学研究に活かせるような柔軟な感性であるともいえます。

育成する人材像は

育成する人材像は、本学のスローガンである「科学と芸術 出会いを求めて」の精神をもの作りの中で実践し、これからの社会で活躍できる技術者です。具体的には、卒業後の各職業分野で、科学や芸術を理解した協調性のある技術者・デザイナー、科学技術と芸術を融合して新領域を開拓する高度専門技術者、科学を応用して新たなデザイン展開をする先端的なデザイナー、として活躍できる人材の育成を目指します。

本取組による効果は

本取組によって、21 世紀の日本において、鋭い感性と高度な技術・知識をあわせ持ち、人間や環境を中心とした新たなもの作りを展開することによって、社会に貢献することができる人材を育成することができます。

また、本取組を通して、「科学と芸術」の精神を活かした優れた卒業研究を選定し、その成果をフィードバックすることによって、本学の教育プログラムをさらに改善することができます。このようなサイクルを繰り返し、その成果を社会に発信することによって、他の大学も含めた今後の工学教育の方向性を示すことができます。

本取組は、社会貢献と大学における工学教育プログラムの改善のそれぞれの機能が、有機的に連携しあったものであると考えています。

事務担当

京都工芸繊維大学学務課学務企画係

TEL 075 - 724 - 7133

FAX 075 - 724 - 7120

E-mail : gakumu@jim.kit.ac.jp